

(様式1)

令和元年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	校訓の精神のもと、あらゆる教育活動をとおして、よりよく問題を解決する力や豊かな人間性、健やかな体などの生きる力を育むとともに、地域産業の担い手としての資質・能力を身に付けさせ、社会の発展に貢献できる人材を育成する。
(2) 現状と課題	今日の地域状況をふまえ、意欲ある生徒を確保し、次代を担う職業人を育成することが本校の役割と考える。そのため、特色ある取り組みや進路状況等を確実にアピールしていくこと、基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に継続して取り組むこと、キャリア教育を更に充実することが必要である。その上で、各学科の教育内容を生かしながら、新しい理論や技術等を導入したプロジェクト学習等を積極的に推進していかなければならない。
(3) 重点目標	1 基礎・基本の習得と定着を図り、実社会で必要となる主体的に学習に取り組む態度や思考力、判断力、表現力などの能力を育成する。 2 農業や環境、地域社会に関する学習を深め、生命や自然、郷土を大切に作る心や他を思いやる心などの豊かな人間性を育成する。 3 食育や健康・安全教育への取り組みを推進し、たくましく生きるための健康や体力、安全で快適な生活を送ろうとする態度を育成する。
(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載する。

学校整理番号	42
学校名	青森県立柏木農業高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和2年1月14日(火)
学校関係者評価実施日	令和2年2月13日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 5名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実	①生徒や保護者、地域社会、及び時代のニーズに対応した教育課程を編成し、生徒の多様な進路希望に対応できる学習機会を保障する。 ②学習内容と教材の精選・充実、指導方法の創意工夫を図り、「わかる・できる」授業の実践から、基礎学力の定着と技能の習得・向上に努める。 ③資格取得や多面的総合的評価の推進を図り、意欲を持って主体的に学習に取り組もうとする態度を養う。	①新学習指導要領への移行と生徒の実態等を考慮した教育課程の編成に努め、各教科・科目とも特に問題なく取り組むことができた。 ②研究授業、公開授業を計画的に実施し、合評会についても全員参加で協議を行いながら、教員個々のスキルアップに取り組んだ。 ③朝の柏農タイムを利用して、学び直しや一般常識問題等に取り組ませた。資格取得に向けて、放課後や長期休業を活用して独自に対応した。また、外部企業・団体とも連携して取り組み、就職希望者への手立てとなっている。	B	・社会で通用する基礎・基本的な学力が身に付くような配慮をお願いしたい。 ・キャリア教育が重要な時代になってきており、今後もさまざまな活動に取り組んでほしい。	・言語活動の充実については、農業科目のプロジェクト学習等で重点的に実施しているところであるが、普通教科でも、授業に積極的にグループワーク等を取り入れるなど、新たな取り組みを計画的に推進していきたい。 ・「主体的・対話的な深い学び」への授業改善、発達障害やその疑いのある生徒への指導など、教員が喫緊の課題に対応できるようにするため、校内研修の充実と外部研修への参加を通して専門的知識の習得とスキルアップに努める。 ・生徒の自主的・自発的な学習を育むための指導成果を進路志望の達成に結びつけるためにも、各種コンテスト等に積極的に参加させる等、さらに工夫した指導法を検討していきたい。

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度		
2	生徒指導の充実	<p>① 基本的な生活習慣や倫理観、規範意識等に関する指導を徹底し、不易で普遍的な価値観の育成に努める。</p> <p>② 生徒と教職員との望ましい人間関係のもとに生徒理解を深め、他を思いやる心や公共物を大切にすることを育成するために、問題の早期発見や個に応じた適切な指導に努める。</p> <p>③ 交通安全や不審者等に関する取組の充実を図り、事故や被害を未然に防止しようとする態度を養う。</p>	<p>① 非行の芽は小さなうちに摘み取る「割れ窓理論」の考え方に立脚し、全教職員が個々の生徒が発する小さなサインを見逃さないように、声掛けやその場指導の徹底を継続した。</p> <p>② 4月、8月に生徒とHR担任との面談週間を設けることで、早期に生徒理解を深めたり、悩み等を聞くことができた。また、最近のSNS事情に関する講習会を実施するなど、生徒がトラブルに巻き込まれることを未然に防止するよう指導を強化した。</p> <p>③ 交通安全教室や登下校時巡回、防災訓練などを充実し、日常の注意喚起を効果的に実施するなど、常日頃から事故防止等に努めることができた。</p>	A	<p>(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつを含め、容儀やマナー等の指導を徹底しながら、社会で通用する人材の育成に努めてほしい。</li> <li>・ 生徒が楽しい気持ちで登校し、笑顔で学校生活を送れるような環境づくりをしてほしい。</li> <li>・ 平面的な意見を述べる保護者が増えているように思うので、生徒にはいろいろな経験をさせてほしい。</li> <li>・ いろいろな生徒がいるが、安心して子どもを任せられる教育環境づくりを進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣及び規範意識の低い生徒に対する対応については、教員個々のスキル向上と組織的な対応を実践しながら、個々の生徒に対しきめ細やかな指導を進めていきたい。</li> <li>・ 防災・災害や交通安全に関しては、防災訓練、交通安全教室、HR活動、全校集会等を使用しながら、今後も指導を進めていきたい。</li> <li>・ 生徒指導においても、発達障害やその疑いのある生徒への対応が喫緊の課題であり、教員がその知識や指導方法を習得できるように、外部研修の機会を多くし、また、校内研修の充実にも取り組んでいきたい。</li> </ul>
3	進路指導の充実	<p>① 生徒・保護者との面談、志望や適性等の把握、情報の収集と提供の充実を図り、進路目標の達成を支援する。</p> <p>② インターンシップやボランティア活動の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。</p> <p>③ 学科、学年、進路指導部の連携を強化し、大学進学や公務員就職希望者を早くから選定し、計画的な支援に努める。</p>	<p>① 進路指導部と3学年との打合せを毎朝綿密に行い、学科とも連携し進路指導を進めた。この取組により、9割の生徒が目標を達成できた。</p> <p>② 2学年が中心となり、学科と連携・協力し、生徒が希望する職場でのインターンシップを進めた結果、生徒の進路に向けた意識高揚に繋がった。</p> <p>③ 今年度も学年に合った進路ガイダンスを実施した。早めに三者面談を行い希望進路を決定し、進学指導では学科主任が中心となり面接や小論文指導、就職指導では学年主任が中心となり、履歴書の指導や面接指導を計画的に行うことができた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森県農業において、経営力に優れた農業の担い手を育成してほしい。また、農業自営だけでなく、農業関連の就職など地域産業の担い手の育成にも努めてほしい。</li> <li>・ 人とのコミュニケーションが苦手な生徒もいると思うが、就職又は進学できるように指導してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家の子弟が激減しているため、進路指導部、農業部、農業クラブが連携・協力しながら、農業経営や地域の農業関連産業について興味・関心を持てるような教育活動を行ってほしい。</li> <li>・ 引き続き、早めの三者面談で希望進路を考えさせながら、進路指導、学年、学科が連携・協力し、進路ガイダンス等を行いながら計画的な指導を行ってほしい。また、進学希望者が希望進路を達成できるように、進学指導体制の充実を図っていく。</li> </ul>

4	農業・環境教育の充実	<p>①課題研究におけるプロジェクト学習の充実を図り、自ら考え、実践し、表現する力の育成に努める。</p> <p>②庭園や花壇をはじめ、校地内の環境整備を通して、景観の維持創造や環境の保全に対する意識の高揚を図る。</p> <p>③学校農場経営において、新しい取組や技術の導入を積極的に推進し、収量や品質の向上、付加価値の創出に努める。</p>	<p>①科目「農業と環境」と「課題研究」でのプロジェクト学習が計画的に実施されており、レポートの作成、発表方法の工夫等において、研究内容や態度が向上し、3年生のポスター発表会は充実したものになった。</p> <p>②近隣に生息する希少生物やシャジクモなどの絶滅危惧種の保護、ハンカチツリーの植樹や町内の緑化活動などに取り組む環境教育など、各学科の特色を生かした指導を行うことができた。</p> <p>③海外研修、修学旅行における京都でのりんご販売や多くの生徒が販売実習に取り組んだことで、コミュニケーション能力が向上した。また、りんご研究部員が中心となり、りんごにおいて、GLOBAL G. A. P. 認証を取得した。</p>	A	<p>・農家の子弟が激減している今日、農業に触れる機会を多くしてほしい。</p> <p>・将来、農業を志す生徒、農業を支える生徒を育てて欲しい。</p> <p>・今後も地域農業だけでなく、国際的な農業事情等も教育内容に取り入れながら農業教育を進めてほしい。</p> <p>・今後も地域とのつながりのある連携、販売実習、共同研究、緑化活動などを続けてほしい。</p>	<p>・プロジェクト学習において、地域の課題に着目しながら、研究成果を地域に発信できるようにしていきたい。</p> <p>・地元農家や企業等と連携して各学科の特色を生かした研究活動や地域支援活動等を行ったり、海外研修を実施するなど、キャリア教育やグローバル教育の推進につなげたい。</p> <p>・販売実習における接客の経験はキャリア教育の観点からも意義があるため、さまざまな場所で販売実習を計画し、より多くの地域の方に販売実習を周知する方策として広報活動を強化したい。</p> <p>・農業クラブにおいては、今後も大学生や地域の方々など異世代交流を活発化したり、話し合いや発表する機会を多く持ったりしながら、生徒の学習に対する意欲高揚とコミュニケーション能力を高めたい。</p>
---	------------	--	--	---	--	--

(11) 総括	<p>本校教育活動の評価結果をもとにさらに改善を図り、生徒に課題解決能力や豊かな人間性、健やかな体等の生きる力、地域産業の担い手としての資質・能力を習得させるために邁進していきたい。また、各種コンクールへの積極的な参加、各学科の特色を生かした研究活動、販売実習や商品開発を含めた農業教育を充実・発展させ、今後も生徒一人ひとりが主役の農業高校を目指して誠心誠意努力していきたい。</p>
---------	--